

高志の国
文学館
KOSHINOKUNI
Museum of Literature

高志の国文学館 年報

平成27年度

高志の国文学館 年報

平成27年度

目 次

I 平成27年度のあゆみ

平成27年度のあゆみ	4
------------	---

II 事業内容

1 展示活動	6
2 資料概況	19
3 教育・普及事業	20
4 高志の国文学館友の会	30

III 管理・運営

1 利用状況	32
2 施設の概要	34
3 機構	35
4 組織	36

IV 資料

沿革	38
----	----

V 関係法令

関係法令	40
------	----

I 平成27年度のあゆみ

平成27年度のあゆみ

年 月 日	事 項
平成27年 3月13日	企画展「三禅定の旅ー立山・白山・富士山をめぐるー」(5月11日まで)
4月5日	観桜の集い2015 in 高志の国文学館
4月12日	文学講座(大学連携シリーズ)(6月20日まで 全4回)
5月8日	映画「NORIN TEN」パネル展(5月18日まで)
5月20日	ギャラリー展「豊かなイマジネーション 妖怪がひそむ富山の民話」(7月6日まで)
5月29日	特別企画展「『田園発 港行き自転車』藤森兼明 挿絵原画展」(6月29日まで)
7月11日	企画展「あの日、青い空からー久世光彦の人間主義」(9月7日まで)
7月19日	平成27年度「高志プロジェクト」優秀団体の発表
7月19日	入館者40万人達成
7月24日	「マイ・ラスト・ソング 久世光彦×浜田真理子×小泉今日子」(企画展関連)
8月1日	読書感想文サポート講座
8月23日	アフレコ講座(第2回サブカルチャー講座)
8月29日	マンガ講座・ノベル講座(第2回サブカルチャー講座)
9月5日	朗読と音楽の夕べ(11月13日まで 全5回)
9月9日	ギャラリー展「『海』物語 憧れ・神秘・畏怖～海づくり大会によせて～」(10月9日まで)
9月12日	文学講座(巨人の物語をひもとく)(11月15日まで 全4回)
9月19日	高志の国文学館開館3周年記念 朗読劇「風の盆恋歌」
9月27日	観月の集い2015 in 高志の国文学館
10月11日	書道パフォーマンス(金澤翔子氏、金澤泰子氏)
10月12日	文学講座(ゆかりの文学者シリーズ)(12月12日まで 全4回)
10月18日	文芸サロン①(主催:日本ペンクラブ富山の会)
10月18日	企画展「山の湯の詩情 ^{ポエジー} ー田中冬二へのいざない」(12月21日まで)
10月30日	「高志の国文学」情景作品コンクール入賞作品展示(11月30日まで)(主催:富山県教育委員会)
11月2日	大伴家持生誕1300年記念事業 第1回高校生のための平成万葉塾
11月8日	とやま室内楽フェスティバル(主催:(公財)富山県文化振興財団)
11月11日	大伴家持生誕1300年記念事業 第2回高校生のための平成万葉塾
11月29日	大伴家持生誕1300年記念事業 家持シンポジウム「家持さん誕生」
12月18日	映画「人生の約束」パネル展(5月9日まで)
平成28年 1月9日	初春 書道パフォーマンス(富山県立上市高等学校書道部)
1月11日	朗読フェスティバル
1月16日	「高志の国文学館の四季」フォトコンテスト入賞作品展示(2月29日まで)
1月17日	文芸サロン②(主催:日本ペンクラブ富山の会)
1月23日	第2回高校生による朗読会(1月24日まで)
1月23日	企画展「松本清張を魅惑した北陸ーミステリー文学でたどるー」(3月7日まで)
2月7日	炬燵暖話(3月21日まで 全3回)
3月6日	雪山行二氏(富山県立近代美術館館長)特別講演会「堀田善衛とゴヤ」 (富山近美友の会、高志の国文学館友の会 共催)
3月12日	春 書道パフォーマンス(富山大学杉谷キャンパス書道部)
3月21日	企画展「夢二の旅ーたまき・翁久允とのゆかりにふれつつ」(5月16日まで)

II 事業内容

1. 展示活動

□常設展示

概要

常設展示では、当館の収蔵資料を中心に、万葉歌人・大伴家持の越中万葉から現代文学に至るまで、富山県にゆかりのある作家や作品の魅力を紹介している。また、文学だけでなく、漫画や本県ゆかりの先人についても紹介している。

<ふるさと文学の回廊>

富山県ゆかりの代表的な文学者10人を、パネルや直筆原稿などの資料で紹介。このうちの5人については、順次展示替えを行うこととしている。また、回廊内に設置した4つのデジタル万華鏡では、大伴家持の生涯や山岳文学、富山県ゆかりの漫画家や先人について紹介。



「ゆかりの文学者たち」コーナー

<ふるさと文学の蔵①>

古代・中世の富山県ゆかりの文学作品を紹介するとともに、大書架「知の蓄積」では、富山県ゆかりの書籍や寄贈された資料を展示。

体験型装置「万葉とばし」では、大伴家持が詠んだ歌を音と映像で紹介。



体験型装置「万葉とばし」(左)と大書架「知の蓄積」(右)

<ふるさと文学の蔵②>

「ふるさと文学年表」により、万葉の時代から続く富山の文学について、その変容と発展を時代背景とともに紹介。

<ふるさと文学の蔵③>

富山県ゆかりの漫画家をパネルや愛用品とともに紹介。デジタル装置「不思議な本」では、漫画・アニメーションの制作工程を学ぶことができる。

このほか、富山大学附属図書館に所蔵されているヘルン文庫(小泉八雲の旧蔵書)資料や、富山が輩出した先人について紹介。



「ゆかりの漫画家」コーナー



「越中の先人」コーナー

□ 展示構成

平成28年3月31日現在

展示場所	展示の名称	展示の概要
導入展示	文学鳥瞰地図	富山県内に点在する文学ゆかりの地等を検索
	ふるさと文学万華鏡	大伴家持の生涯や山岳文学の歴史をデジタル絵巻で紹介
ふるさと文学の回廊	「ゆかりの文学者たち」コーナー	田部重治 岩倉政治 瀧口修造 新田次郎 角川源義 源氏鶏太 堀田善衛 柏原兵三 木崎さと子 宮本 輝
	ふるさと文学万華鏡	富山県ゆかりの漫画家や先人を映し出すデジタル万華鏡
ふるさと文学の蔵①	大書架「知の蓄積」	富山県ゆかりの書籍や寄贈資料を展示
	万葉とばし	大伴家持が越中で詠んだ歌を音と映像で紹介する体験型装置
	古代の文学／中世・近世の文学	万葉集、立山曼荼羅等を紹介
	辺見じゅんコーナー	辺見じゅん氏ゆかりの寄贈資料を展示
ふるさと文学の蔵②	ふるさと文学年表	万葉の時代から現代に至るまでの富山県ゆかりの文学を紹介
ふるさと文学の蔵③	「ゆかりの漫画家」コーナー	藤子不二雄 ^㉔ 藤子・F・不二雄 山根青鬼 山根赤鬼 まつもと泉 原 秀則 花咲アキラ
	ヘルン文庫コーナー	ラフカディオ・ハーン（小泉八雲） 南日恒太郎
	「越中の先人」コーナー	安田善次郎 浅野総一郎 高峰讓吉 正力松太郎 佐伯宗義 吉田忠雄

(注1) ゆかりの文学者および先人の一部について、関係の機関や個人より実物資料を借用のうえ展示した。

(注2) ヘルン文庫の展示については、富山大学附属図書館の協力を得て、所蔵資料の借用・展示を行った。27年度は4回の展示替えを行った。

□企画展示

(1)企画展「あの日、青い空から—久世光彦の人間主義」

会 期／平成27年7月11日(土)～9月7日(日)
主 催／高志の国文学館
特別協力／久世朋子、久世瓊子、久世公麿
協力／TBS テレビ、美音堂、世田谷文学館、
加藤義彦、佐藤 剛
後 援／北日本新聞社、チューリップテレビ
担 当／小林加代子
観 覧 者 数／3,590人
出 品 点 数／350点
印 刷 物／ポスターA1判 チラシA4判
図録A4判



チラシ 表



図録

趣旨・総括

久世光彦は、「時間ですよ」、「寺内貫太郎一家」シリーズをはじめ、多数のテレビドラマの演出を手がけ、作家としても多彩な作品を発表しました。昭和二十年夏、両親の郷里である富山に疎開し、高校卒業までを過ごしています。

今回の企画展では、富山時代に焦点を当て、特に戦争体験が、後の仕事の原点ともいえる、現実を一步引いて対象化する視点を育んだことを紹介しました。

展示は三章構成とし、第一章では演出家・作家の仕事として、ドラマの場面写真や台本（TBS蔵）、撮影現場をイメージしたジオラマ（アックス制作）、著作の原稿（個人蔵）、装画・挿絵原画（建石修志氏蔵）を展示しました。第二章では富山時代を中心に、幼少期から青年時代までの書簡や文章（個人蔵）、ゆかりの品を展示しました。第三章では初公開の「年上のひと」に送った書簡（個人蔵）を展示し、エッセイ「マ

イ・ラスト・ソング」を原作とした、小泉今日子氏の朗読と浜田真理子氏のピアノ弾き語りによる舞台公演映像（ファイブディー・ラボ提供）を上映しました。

会期中には、俳優小泉今日子氏・ミュージシャン浜田真理子氏「マイ・ラスト・ソング」公演、演出家・映画監督堤幸彦氏による講演会、作家川上弘美氏・作家久世朋子氏・読売新聞編集委員鶴飼哲夫氏による講演会、演出ドラマのDVD上映会、ゆかりの地散策ツアーを開催しました。



「時間ですよ」の銭湯「松の湯」をイメージした導入展示



「寺内貫太郎一家」の撮影風景をイメージしたジオラマ



「少年の日の重い体験」の展示風景

□関連行事

①朗読・弾き語りコンサート「マイ・ラスト・ソング 久世光彦×浜田真理子×小泉今日子」

開催日	出演者	参加者数
7月24日(金)	浜田 真理子 氏 (ミュージシャン) 小泉 今日子 氏 (俳優)	508

②記念トーク1

開催日	講師	演題	参加者数
8月16日(日)	堤 幸彦 氏 (演出家・映画監督)	極私的久世論	223

③記念トーク2

開催日	講師	演題	参加者数
9月4日(金)	川上 弘美 氏 (作家) 久世 朋子 氏 (作家) 鶴飼 哲夫 氏 (読売新聞編集委員)	鼎談「久世光彦 万華鏡」	238

④向田邦子×久世光彦スペシャルドラマ傑作選 DVD 上映会

開催日	作品名	参加者数
7月17日(金)	麗子の足	6
7月24日(金)	風を聴く日	14
7月31日(金)	終わりのない童話	20
8月7日(金)	あさき夢みし	20
8月14日(金)	いつか見た青い空	21
8月21日(金)	女正月	27
8月28日(金)	響子	27
9月4日(金)	風立ちぬ	39

協力／TBSテレビ、TCエンタテインメント

⑤バスツアー

開催日	内容	参加者数
7月25日(土)	長岡墓地、久世本家跡、池田屋安兵衛商店 等	31

⑥担当学芸員による展示解説

7月25日(土)、8月1日(土)、8月15日(土)、8月29日(土)、9月5日(土)

(2)企画展「山の湯の詩情^{ポエジー}—田中冬二へのいざない」

会 期／平成27年10月18日回～12月21日回

《前期》

平成27年10月18日回～

平成27年11月16日回

《後期》

平成27年11月19日回～

平成27年12月21日回

主 催／高志の国文学館

協 力／山梨県立文学館

担 当／綿引香織

観 覧 者 数／1,656人

出 品 点 数／168点

印 刷 物／ポスターA1判 チラシA4判

ガイドブックA4判



チラシ 表



ガイドブック

趣旨・総括

豊かな自然環境を有する富山県にはさまざまな温泉が点在し、なかでも、山の温泉（山の湯）は文学作品にもしばしばとりあげられています。本展ではこうした山の湯と文学の関係性に着目し、山の湯を好んで作品にとりあげた黒部市生地ゆかりの詩人・田中冬二の視点を中心として、富山の風土に根ざした文学世界の魅力を探りました。

山の湯の歴史を写真や資料等でたどる導入部に続き、田中冬二と温泉についてのコーナーでは、冬二の温泉体験と作品へのこだわりを、貴重な創作ノートや詩稿等を通して探り、「山の湯」が冬二作品の重要な要素であることを紹介しました。代表作の一つである、黒蘆温泉をうたった詩「くずの花」については、その変遷を詳しく紹介しました。

本県を代表する温泉街・宇奈月についてのコーナーでは、旅館に逗留した文人たちが残した貴重な書画等

を展示し、温泉地と文学の密接な関わりをひもときました。最後のコーナーでは、山旅で出会う山の湯の魅力について、冠松次郎や田部重治らの随筆等により紹介しました。

会期中には、温泉エッセイスト・山崎まゆみ氏による講演会、富山大学教授の西田谷洋氏による文学講座、ゆかりの地散策ツアー等も開催しました。



風景写真や鳥の鳴き声で山の中の雰囲気を演出



生地・黒蘆・宇奈月温泉のコーナー



黒蘆温泉と田中冬二に関するコーナー

□関連行事

①講演会

開催日	講師	演題	参加者数
11月3日(火・祝)	山崎 まゆみ氏 (温泉エッセイスト・ノンフィクションライター)	温泉は日本の宝	34

②文学講座

開催日	講師	演題	参加者数
12月19日(土)	西田谷 洋氏 (富山大学教授)	田中冬二における詩のセンチメンタル・モダニズム	80

③バスツアー

開催日	内容	参加者数
10月31日(土)	生地温泉たなかや、宇奈月温泉延対寺荘 等	26

④担当学芸員による展示解説

10月24日(土)、11月8日(日)、11月22日(日)、12月13日(日)

(3)企画展「松本清張を魅惑した北陸—ミステリー文学でたどる—」

会 期／平成28年1月23日(土)～3月7日(日)
 主 催／高志の国文学館
 協 力／北九州市立松本清張記念館
 担 当／大川原竜一
 観 覧 者 数／1,798人
 出 品 点 数／319点 (写真、パネル等含む)
 印 刷 物／ポスターA1判 チラシA4判
 ガイドブックA4判

趣旨・総括

日本のミステリー文学は、昭和30年代に発表された松本清張の作品によって大きく展開しました。清張は、作品の舞台と背景に日本各地を取り上げ、その景観や風物を細かく描写することで、地方を詩情豊かに表しています。北陸も作品の舞台あるいは物語の展開における関連地として描かれました。

本展では、北陸・富山を舞台にしたミステリー作品に注目し、物語の構成に活かされた風土とその魅力を探りました。

展示室では、北九州市立松本清張記念館の協力を得て、清張愛用の旅行バッグや一眼レフカメラ、万年筆、眼鏡を出展しました。『万葉翡翠』『遭難』『疑惑』『けものみち』『ゼロの焦点』という5作品をクローズアップし、それらの直筆原稿や映画資料を展示しました。また、新田次郎『チンネの裁き』や森村誠一『人間の証明』をはじめとする、富山県ゆかりのミステリー小説63作品を、富山県内のマップとともに紹介しました。

北陸・富山は、松本清張が陰鬱や哀愁漂うその風土のなかにロマン性を見出して以降、特異な事件や犯



チラシ 表



ガイドブック

罪の動機の舞台として描かれ、西村京太郎や内田康夫を代表とするトラベル・ミステリーに取り上げられるようになったことを伝える展示となりました。

会中には、富山大学准教授の小谷瑛輔氏の文学講座や、「コトノハ」アナウンサーによる朗読会のほか、松本清張原作の『ゼロの焦点』『疑惑』のDVD上映会を開催しました。



松本清張の愛用品



「ミステリー文学の舞台・富山」コーナー



『遭難』のコーナー

□関連行事

①文学講座

開催日	講師	演題	参加者数
1月30日(土)	小谷 瑛輔 氏 (富山大学准教授)	文学としての松本清張	100

②DVD映画上映会

開催日	作品	参加者数
2月11日(木・祝)	松本清張原作『ゼロの焦点』(松竹、1961年)	140
2月28日(日)	松本清張原作『疑惑』(松竹、1982年)	76

③「コトノハ」アナウンサーによる朗読会

開催日	出演	作品	参加者数
2月7日(日)	車谷 恵子 氏 田島 悠紀子 氏 久和 恵実 氏	松本清張『疑惑』	84
2月20日(土)	廣川 奈美子 氏	松本清張『万葉翡翠』	88

④担当学芸員による展示解説

1月30日(土)、2月11日(木・祝)、2月20日(土)、2月28日(日)、3月5日(土)

(4)企画展「夢二の旅ーたまき・翁久允とのゆかりにふれつつ」

会 期／平成28年 3月21日(土)～
平成28年 5月16日(日)
主 催／高志の国文学館
特別協力／(公財)金沢文化振興財団 金沢湯涌夢二館
協力／朝日町立ふるさと美術館、
(公財)翁久允財団
担 当／小林加代子
観 覧 者 数／709人(平成27年度中)
(全会期中は、5,305人)
出 品 点 数／124点
印 刷 物／ポスター A1判 チラシ A4判
ガイドブック A4判



チラシ 表



ガイドブック

趣旨・総括

画家であり詩人でもあった竹久夢二は、生涯にわたり旅を続け、新たな作品を生み出していきました。晩年には欧米にも旅しています。

今回の企画展では、公益財団法人金沢文化振興財団金沢湯涌夢二館の特別協力を得て、同館の平成27年度企画展「夢二の旅～鉄道と船の旅路をたどる～」を紹介するとともに、富山とのゆかりを紹介しました。

展示会場では、金沢湯涌夢二館所蔵の夢二が旅した各地ゆかりの作品や、鉄道や船を題材とした作品を展示しました。特に、滞米時に制作された「手」(金沢湯涌夢二館蔵「トガワコレクション」)は、同館「夢二の旅」展で本邦初公開となった作品でした。

富山とのゆかりを紹介するコーナーでは、富山県出身のジャーナリスト・小説家で、夢二とともに渡米した翁久允との交流を伝える書簡や作品(個人蔵)を展示しました。

また、富山の風景を描いた「有磯の海岸」(当館蔵)は、今回が初公開でした。この作品は、『富山日報』大正4年1月26日掲載作品「有磯海」とよく似ており、

部分的に共通する箇所が見られます。同じ作品ではありませんが、二つの作品は夢二の同時期の作品と考えられます。

会期中には、元聖徳大学教授逸見久美氏の講演会、金沢湯涌夢二館館長太田昌子氏の講演会、金沢湯涌夢二館学芸員川瀬千尋氏と当館学芸員との特別展示解説、桐朋オーケストラ・アカデミー青木恵音氏、阿部大樹氏によるセノオ楽譜ミュージアムコンサート、金沢への友の会バスツアーを開催しました。



「有磯の海岸」(高志の国文学館蔵)(左)と「有磯海」(『富山日報』大正4年1月26日)(右)



富山とのゆかりを紹介したコーナー



展示室概観

□関連行事

①講演会 1

開催日	講師	演題	受講者数
4月23日(土)	逸見 久美氏 (元聖徳大学教授)	竹久夢二と翁久允	77

②講演会 2

開催日	講師	演題	受講者数
4月29日(金・祝)	太田 昌子氏 (金沢湯涌夢二館館長)	夢二の旅-金沢のたまきと彦乃、そして自画像-	76

③「セノオ楽譜」ミュージアムコンサート

開催日	出演	参加者数
4月30日(土)	青木 恵音氏 (ヴァイオリン) 阿部 大樹氏 (ピアノ)	48

④バスツアー

開催日	内容	参加者数
5月14日(土)	金沢湯涌夢二館 湯涌温泉 お宿 やました 石川近代文学館	23

⑤ギャラリートーク (展示解説)

開催日	解説	参加者数
4月16日(土)	川瀬 千尋氏 (金沢湯涌夢二館学芸員) 小林 加代子 (当館学芸員)	27

□特別企画展示

特別企画展「『田園発 港行き自転車』 藤森兼明 挿絵原画展」

会 期／平成27年5月29日(金)～6月29日(日)
 主 催／高志の国文学館
 共 催／北日本新聞社
 担 当／川淵 貴
 観 覧 者 数／1,815人
 出 品 点 数／75点
 印 刷 物／チラシA4判

企画展では、小説のあらすじの紹介に合わせて、厳選した50点の挿絵を展示し、名作『田園発 港行き自転車』の世界を、挿絵を通して楽しめる展示となりました。

会期中には、北日本新聞社文化部長（現文化部長）の寺田幹氏による講演会を開催しました。



チラシ



藤森兼明氏によるギャラリートーク

趣旨・総括

北日本新聞に連載されていた小説『田園発 港行き自転車』（作：宮本輝）が単行本化されたのを記念し、毎回掲載されていた挿絵の原画展を開催しました。

連載は平成24年1月1日から平成26年11月2日まで毎週日曜、計150回にわたり、毎回、日本芸術院会員で砺波市庄川町出身の藤森兼明氏が挿絵を手掛けました。県内の景色や登場する人物、食材などを水彩の淡いタッチを生かして叙情豊かに描き上げた作品の数々は、心の機微を繊細に捉えていく宮本の文章と相まって、読者のイメージを大いに膨らませました。



寺田 幹氏による講演会

□関連行事

①ギャラリートーク

開催日	講 師	参加者数
5月28日(木)	藤森 兼明氏	122

②企画展関連講座

開催日	講 師	演 題	受講者数
6月7日(日)	寺田 幹氏 (北日本新聞社文化部長)	『田園発 港行き自転車』の舞台を訪ねて	76

□ギャラリー展示

(1)ギャラリー展「豊かなイマジネーション 妖怪がひそむ富山の民話」

会 期／平成27年5月20日(金)～7月6日(日)
 主 催／高志の国文学館
 特別協力／平井千香子、清河北斗
 担 当／守内紀子
 観 覧 者 数／7,533人
 出 品 点 数／23点
 印 刷 物／チラシA4版 ガイドペーパーA4版



チラシ 表



チラシ 裏

趣旨・総括

すぐれた景観を誇る富山の風土は、深い雪の中での冬ごもりや、雪解け期や雨期を迎えての河川の氾濫等、人々にさまざまな困難をもたらしてきたという側面も併せ持ちます。そこから生まれた越中の民話は、襲いくる困難を妖怪等にたとえて表し、自然への敬虔な畏怖の念を育んできました。民話をもとに生まれた文学作品にも焦点をあて、ふるさと富山の風土に根差した心を探りました。

富山市内では八尾、細入、岩瀬、大沢野、さらには上市町、滑川市、魚津市、宇奈月町、砺波市、利賀

村等各地の民話の中の妖怪を、AR化（デジタルで実像化する）という最新の手法で展示し、今後の常設展等での実施の可能性を探りました。展示の際には、タブレットを用意し、どなたでも見るように配慮しました。

代表作に『百鬼夜行抄』がある富山県出身の漫画家、今市子氏、歌の文芸誌『弦』の表紙を担当する県内在住の日本画家、平井千香子氏の富山の民話にまつわる描き下ろし作品や、県内在住の美術作家、清河北斗氏の富山の民話にまつわる造形作品を展示し、富山の自然から生まれた民話世界を考えるきっかけとしました。

また、富山とほぼ同じ緯度に位置するスペインからの留学生が描いた挿絵を大型プロジェクターにて展示しました。スペインには自然の中に妖怪がいると考えることはないとのことで、県民のもつ豊かなイマジネーションを再確認できました。

富山の民話は『肯構泉達録』や『越の下草』等に採集されていますが、それらの記述は豊かなイマジネーションにあふれています。本展では民話の中の妖怪たちを実像化し、「庭」という自然の中に配しました。

富山の民話世界は泉鏡花の中にも息づきます。鏡花は、金沢の旧制第四高等学校の試験に失敗して富山に旅行し、数か月滞在しています。この時神通川の氾濫等があり、鏡花が愛読したとされる『絵本太閤記』や『三州奇談』等の富山を舞台とした怪しい物語の記述が、よりリアルな印象を伴って鏡花の内部に蓄積され、『蛇くひ』等の「越中もの」と呼ばれる作品に結実していったものと思われます。



展示概観



清河北斗氏作品展示

□関連行事

①大学生のお兄さんやお姉さんとあそぼう！

開催日	内容	受講者数
5月24日(日)	富山大学児童文化研究会による民話読み聞かせ	80

②講演

開催日	講師	演題	受講者数
6月14日(日)	小松 和彦氏 (国際日本文化研究センター所長)	民話のなかの妖怪たち	82

③文学講座

開催日	講師	演題	受講者数
6月27日(土)	高熊 哲也氏 (富山高等専門学校教授)	少年の女神幻想 (泉鏡花『蓑谷』から)	42

(2)ギャラリー展 「海」物語 憧れ・神秘・畏怖～海づくり大会によせて～

会 期／平成27年9月9日(金)～10月9日(金)
 主 催／高志の国文学館
 特別協力／清河北斗、岡田順一
 協力／魚津蜃気楼研究会
 担 当／菅田智雄
 観 覧 者 数／2,380人
 出 品 点 数／23点
 印 刷 物／チラシA4判

説を特集し、高志の国の人々が海に対して抱いた思いを探りました。

展示では、海への「憧れ」や「神秘」の思いがあらわれている例として、唐島伝説や人魚伝説、蜃気楼にまつわる伝承等を紹介しました。また、寄り回り波や津波に対する「畏怖」の念がわかる例として、園家千軒の伝説等を解説パネルで展示しました。県内写真家の制作による巨大魚顔写真パネル「GYOGAN」や、県内造形作家の制作によるオブジェ「銀蛤」、民話をわかりやすく描いた紙芝居も展示し、海そして民話・伝説をより身近にイメージしやすくなるように工夫し



チラシ 表



チラシ 裏



展示概観

趣旨・総括

本ギャラリー展では、春に開催されたギャラリー展(民話展)の第二弾として、海にまつわる民話・伝

ました。

会期中には、海に関連するイベントとして、2回の親子講座を開催し、県の国際交流員に海の向こうの国（中国）の伝説を紹介してもらったほか、海外で珍しい魚を数多く捕えて「怪魚ハンター」として活躍中の小塚拓矢氏に講演をしていただきました。

平成27年10月24日（土）・25日（日）には、射水市を会場として「第35回全国豊かな海づくり大会～富山大会～」が開催され、その関連企画として海に対する理解を深める契機になりました。



岡田順一氏作品・清河北斗氏作品の展示

□関連行事

①親子講座1

開催日	講師	演題	受講者数
9月13日（日）	王佩瑜（オウハイユ）氏 （富山県国際交流員） 呉菲（ゴヒ）氏 （富山県国際交流員）	海の向こうの国 －中国の民話に触れよう	30

②親子講座2

開催日	講師	演題	受講者数
9月22日（火・祝）	小塚 拓矢氏	ふるさとの海から世界へ	51

2. 資料概況

□資料数

		印刷物 (書籍・雑誌・冊子等)	自筆資料				美術品	写真	映像・音響資料	調度品・愛用品	その他	計
			原稿	原画	書簡	色紙・短冊・軸・一枚もの、その他						
～H26年度	購入	12,020	35	9	63	25	4	5	353	1	113	12,628
	寄贈	20,979	249	59	773	1,205	108	118	142	22	248	23,903
	製作	12	10	10	6	11	2	1		1	3	56
	小計 (A)	33,011	294	78	842	1,241	114	124	495	24	364	36,587
H27年度	購入	1,000	90	1	131	7	1	28	41	1	7	1,307
	寄贈	2,326	36	32	99	202		80	27	1	25	2,828
	製作											0
	小計 (B)	3,326	126	33	230	209	1	108	68	2	32	4,135
～H26+H27合計(A)+(B)		36,337	420	111	1,072	1,450	115	232	563	26	396	40,722

□主な新収蔵資料

寄 贈

作者等	資料名
池田弥三郎	原稿「魚津だより」
池田弥三郎	河内屋池田弥三郎文庫資料一式
今 市子	イラストボード「ウグイス姫」「七山長者とおろち」
岩倉政治	個人宛書簡（昭和50年）
遠藤霜井	写本『はい可以 ゆりの集 雪月花合本』
小泉八雲	自筆原稿・書簡
竹久夢二	絵画「有磯の海岸」（絹本淡彩、額装、大正4年頃）
中土義敬	書付「内ヶ崎作太郎漢詩文と八雲スケッチ」
南日恒太郎	中土義敬宛書簡（大正12年10月6日付、10月11日付）
辺見じゅん	天沼中学校文学クラブ『箱庭』第6巻第11号（第六回卒業生記念号）
ほるぷ出版	『名著復刻日本児童文学館』全34冊
山根青鬼	干支「申」イラスト色紙

購 入

作者等	資料名
岡部文夫	原稿「越中女良」（400字詰原稿用紙5枚）
翁久允著、竹久夢二装幀	『道なき道』（初版、甲子社書房、昭和3年）
源氏鶏太	草稿「人生感あり」（400字詰原稿用紙1,169枚、挿絵原画292枚）
源氏鶏太	住友本社解散記念撮影集合写真（昭和21年1月25日）
佐伯彰一	草稿「現代小説の変質<アメリカ文学>」（200字詰原稿用紙22枚）
清水眞弓（辺見じゅん）	歌稿（200字詰原稿用紙6枚）、自筆編集日誌ノート
高島 高	原稿「ポエジイについて」（400字詰原稿用紙2枚）
田中冬二	長谷川巳之吉宛葉書（昭和46年10月31日付）
稗田董平	歌集ノート
平井千香子	装画「十六人谷」
堀田善衛	矢内原伊作宛葉書（昭和25年10月12日付～昭和43年5月16日付）
渡辺順三	久保田正文宛葉書（昭和34年6月26日付～昭和35年5月23日付）
—	『浅野総一郎邸写真帖』（昭和3年頃）

3. 教育・普及事業

平成27年度は、前年度に引き続き、企画展と連動した講演会、映画上映会、さらには、ライブラリーコーナーなどを活用した音楽イベントや導入展示の壁面を利用したパネル展など、多彩なイベントを実施した。

□観桜の集い2015 in 高志の国文学館

開催日／平成27年4月5日回

会場／高志の国文学館万葉の庭（特設ステージ）

参加者／204名

平成27年4月5日（日）、松川の桜が満開を迎える中、当館の万葉の庭（特設ステージ）にて「観桜の集い2015 in 高志の国文学館」を開催した。

富山県立富山工業高等学校吹奏楽部の演奏で幕開けし、桜が満開となった庭園の特設ステージに、万葉集の愛好家らが登壇した。そして、和田朝子舞踊研究所が洋舞、藤間紋之助さん、藤間勘登栄さんが日舞で花を添えた。さらに、県オペラ協会の加藤恵さんが戸島園恵さんのピアノに合わせ、「朧月夜」など5曲を歌った後、石井知事、中西館長らによる万葉集の特別朗唱が行われた。フィナーレは、射水市出身の箏演奏家、黒川真理さんの演奏で締めくくった。

その他、高志の国文学館の研修室を利用している芸術文化団体による作品展示や、呈茶、生花展示、ます寿し販売が行われ、会場は大いに盛り上がった。



□映画「NORIN TEN」パネル展

開催日／平成27年5月8日回～5月18日回

会場／高志の国文学館エントランスロビー

富山県出身の農学者で新種小麦「小麦農林10号」の生みの親として知られる稲塚権次郎の生涯を描いた映画「NORIN TEN～稲塚権次郎物語」が、全国に先駆けて県内で先行公開されるのを記念しギャラリー展を開催。5月8日（金）には、ギャラリー展のオープニングイベントとして、監督の稲塚秀孝さん、出演者の仲代達矢さん、松崎謙二さん、藤田弓子さんらが来館し、映画のPRを行った。



□高志プロジェクト

開催日／平成27年7月19日回

会 場／高志の国文学館研修室101

平成25年度より、富山県ゆかりの文学や郷土の研究を行うグループを公募・選考し、優れた団体に奨励金を交付する「高志プロジェクト」を行っている。これは、富山県の風土や歴史、文化をより深く調査・研究し、発信することにより、郷土の文化や魅力を再認識し、次世代へ継承することを目的としたもので、平成27年度には次の3団体が選ばれ、認定証交付式が実施された。あわせて前年度認定団体による研究成果発表会も行われた。



〔高志プロジェクト認定研究〕

研究テーマ	団体名 代表者(職)
環日本海地域におけるメディアミックスー文学と隣接諸ジャンルとの交渉、特に前史としての詩と新民謡の交渉史を中心にー	3人+の会 近藤 周吾 氏 (富山高等専門学校准教授)
高岡漆器文様	伝統工芸高岡漆器協同組合 氏家 史貴 氏 (伝統工芸高岡漆器協同組合理事長)
民俗学者・辺見じゅん	中田 亮 氏 (民俗学研究者)

□読書感想文サポート講座

開催日／平成27年8月1日回

会 場／高志の国文学館研修室101

「原稿用紙がうまらない」、「何を書けばいいかわからない」といった声にお応えするため、小学校中学年及び低学年を対象に、読書感想文の書き方講座を実施した。

今回は、東部教育事務所指導主事の森田美幸先生と富山大学人文学部の学生3名の指導のもと、一人ひとりに丁寧に支援した。



講 座	対象図書	参加者数
小学校中学年向け講座	『さっちゃんのまほうのて』(偕成社)	28
小学校低学年向け講座	『ごめんねともだち』(偕成社)	24

□第2回サブカルチャー講座

開催日／平成27年 8月23日回、8月29日回

会場／高志の国文学館研修室101

代々木アニメーション学院より講師を招聘して、アフレコ講座やマンガ講座、ノベル講座を開催した。

アフレコ講座では、声優さんによる模範演技の後、アニメや洋画の吹き替えを行った。マンガ講座では、読みやすいコマ割りの描き方を、ノベル講座では、面白いといってもらえる小説の書き方をレクチャーした。



開催日	講座	受講者数
8月23日(日)	アフレコ講座(中級)	24
8月23日(日)	アフレコ講座(上級)	15
8月29日(土)	マンガ講座	14
8月29日(土)	ノベル講座	15

□朗読と音楽の夕べ

9月から11月にかけて、県内アナウンサーによる朗読と音楽演奏を組み合わせた「朗読と音楽の夕べ」を開催した。

第1回では、企画展「あの日、青い空から－久世光彦の人間主義」に合わせ、チューリップテレビの西美香アナウンサーが、久世朋子さんの『テコちゃんの時間 久世光彦との日々』を朗読した。



開催日	朗読者(所属) 演奏者(楽器)	作品	観覧者数
9月5日(土)	西 美香氏(チューリップテレビ) 戸島 園恵氏(ピアノ) 西牧 佳奈子氏(チェロ)	久世 朋子 『テコちゃんの時間 久世光彦との日々』	128
9月18日(金)	吉本 麻希子氏(FMとやま) 青木 恵音氏(ヴァイオリン) 藤井 亜里沙氏(ピアノ)	井村 和清 『飛鳥へ、そしてまだ見ぬ子へ－若き医師が死の直前まで綴った愛の手記』	135
10月23日(金)	風間 真美子氏(富山テレビ放送) 高森 静香氏(ピアノ)	山内マリコ 『ここは退屈迎えに来て』	136
11月7日(土)	小西 政親氏(NHK富山放送局) 太田 豊氏(おりん、笛ほか)	宮沢 賢治 『よだかの星』	163
11月13日(金)	佐藤 栄治氏(北日本放送) 松岡 正樹氏(笛)	『今昔物語集』・ 十返舎一九『方言修行金草鞋』	125

□平成27年度 文学講座

平成27年度の文学講座は、「大学連携シリーズ」、「巨人の物語をひもとく」及び「ゆかりの文学者シリーズ」を開催した。

大学連携シリーズ

開催日	講師	演題	受講者数
4月12日(日)	立野 幸雄氏 (富山国際大学非常勤講師 ・射水市大島絵本館長)	山を愛した作家・新田次郎	95
5月30日(土)	中井 精一氏 (富山大学人文学部教授)	富山県方言と京・大阪のことば	127
6月6日(土)	大工原 ちなみ氏 (富山大学人文学部長・教授)	死への旅路－ホロコースト文学を通じて－	65
6月20日(土)	大西 宏治氏 (富山大学人文学部准教授)	若者にとっての地方と都会 －山内マリコ作品を通して富山を考える－	64

巨人の物語をひもとく

開催日	講師	演題	受講者数
9月12日(土)	和田 健氏 (小矢部園芸高等学校講師)	稲塚権次郎 －世界の食糧危機を救う	85
9月20日(日)	犬島 肇氏 (『嵯峨寿安、そしてウラジオストックへ』著者、前富山県参与、元県議会議員)	嵯峨寿安 －明治のアウトサイダー	71
10月4日(日)	辻沢 賢信氏 (『漂民次郎吉』著者、前滑川市教育委員長)	漂民次郎吉－鎖国下、世界の情報を伝える	59
11月15日(日)	山崎 健氏 (NPO法人九転十起交流会理事長)	浅野総一郎、その人生 －夢を実現「海運業」・後世への贈り物「埋立築港」	70

ゆかりの文学者シリーズ

開催日	講師	演題	受講者数
10月12日(月・祝)	小島 健氏 (俳人協会理事、「河」同人会長)	角川源義の人と俳句	92
11月1日(日)	近藤 周吾氏 (富山高等専門学校准教授)	源氏鶏太の幽霊小説について	52
12月5日(土)	黒崎 真美氏 (富山国際大学付属高校講師)	小説に描かれた富山 －横山源之助『貧しき小学生徒』を中心に－	63
12月12日(土)	友尾 豊氏 (京都産業大学客員教授)	とやまの池田弥三郎	67

□書道パフォーマンス「自然を描くー書的美しさを求めてー」

伝統文化としての書の本質を磨きながら、新しい書の魅力を探求し、新たな文化を創造することを目指して、「書道パフォーマンス」、「初春 書道パフォーマンス」及び「春 書道パフォーマンス」を開催した。

「書道パフォーマンス」では、2012年のNHK大河ドラマ「平清盛」の題字を揮毫し、2015年NY国連本部にて開催の「世界ダウン症の日記念会議」でスピーチを行った書家の金澤翔子氏による揮毫と、翔子氏の母である泰子氏による講演「翔子、その書との出会い」を開催した。



	開催日	出演	テーマ	参加者数
書道パフォーマンス	10月11日(日)	金澤 翔子 氏、金澤 泰子 氏	「月」	500
初春 書道パフォーマンス	1月9日(土)	富山県立上市高等学校書道部	「雪」	100
春 書道パフォーマンス	3月12日(土)	富山大学杉谷キャンパス書道部	「花」	82

□文芸サロン

開催日／平成27年10月18日回、平成28年1月17日回
会場／高志の国文学館研修室101

日本ペンクラブ富山の会は、県民が深く文芸を愛し、さらに創作の歓びを求めるに至ることを期待して、広く県ゆかりの文芸人の協力を求めつつ、高志の国文学館において文芸サロンを開設。

主催は日本ペンクラブ富山の会、共催は高志の国文学館。日本ペンクラブ富山の会の会員および県ゆかりの文芸人が1名ずつ話題提供し、それに対して他の会員がコメント。その後、コメントをめぐって参加者と討論するという形で、今年度はじめて開催した。



開催日	話題提供者・課題図書	参加者数
10月18日(日)	中西 進 館長 石川達三『生きている兵隊』(中公文庫)	27
1月17日(日)	吉田 泉 氏 松本清張『疑惑』(文春文庫)	39

□「高志の国文学」情景作品コンクール入賞作品展

開催日／平成27年10月30日～11月30日

会場／高志の国文学館エントランスロビー

このコンクールは、先人の喜び、悲しみ、悩み、感動などを伝える「高志の国文学」にふれ、感じた心情や情景を、文芸や美術、写真で表現したものを中学生・高校生を対象に募集した。今回は、応募のあった1,575点（文芸1,436点、美術61点、写真78点）のなかから、入賞した41点を展示した。



□大伴家持生誕 1300 年記念事業 高校生のための平成万葉塾

大伴家持生誕1300年（2018年）に合わせて初めて企画。第1回では、高志の国文学館の中西進館長が、「万葉集の3大テノール」と題して講演し、大伴家持と柿本人麻呂、山上憶良の3歌人について解説して万葉集の魅力を伝えた。

また、第2回では、國學院大学の辰巳正明名誉教授が「子を愛するがゆえに－山上憶良の歌」と題して講演し、山上憶良の和歌について解説した。

	開催日	場所	講師
第1回	11月2日(月)	富山県立富山高等学校	中西 進 館長
第2回	11月11日(水)	富山県立伏木高等学校	辰巳 正明 氏（國學院大學名誉教授）

□大伴家持生誕 1300 年記念事業 家持シンポジウム「家持さん誕生」

開催日／平成27年11月29日

会場／ポルファートとやま

参加者／500名

2018年に生誕1300年を迎える万葉歌人・大伴家持の魅力や人柄を伝えるシンポジウム「家持さん誕生」を開催。東京大学名誉教授の多田一臣氏が「家持さんてどんな人」と題して基調講演を行い、時代背景などを踏まえ、家持の生涯をわかりやすく解説した。

その後行われたパネルディスカッションでは、多田氏に加え、黛まどか氏（俳人）、小川靖彦氏（青山学院大学教授）、中西進館長が登壇し、それぞれお気に入りの家持の和歌について紹介した。



□室内楽フェスティバル

開催日／平成27年11月8日回

会場／高志の国文学館ライブラリーコーナー

出演／小川 響子氏（ヴァイオリン）

戸原 直氏（ヴァイオリン）

古賀 郁音氏（ヴィオラ）

伊東 裕氏（チェロ）

参加者／91名

とやま室内楽フェスティバルは、若手室内楽演奏家を育成し、その成果を富山県の音楽芸術の振興に活かす、国内でも特色のある音楽祭。今回は、サントリーホール室内楽アカデミーより4人のフェローが参加し、モーツァルトやハイドン、ブラームスの弦楽四重奏を披露した。



□映画「人生の約束」パネル展

開催日／平成27年12月18日回～平成28年5月9日回

会場／高志の国文学館エントランスロビー

平成28年1月9日（土）の映画公開に先立ち、12月18日（金）より映画「人生の約束」のパネル展を開催。映画「人生の約束」は、射水市新湊地区を中心に、富山県内各地で撮影が行われ、竹野内豊さん、江口洋介さん、松坂桃李さん、西田敏行さん、柄本明さんなど世代を超えた実力派俳優が集結。今回のパネル展では、出演者のみなさんのサイン色紙や映画で使われた台本、映画の題材となった曳山（山車）の模型などを展示した。



□朗読フェスティバル

開催日／平成28年1月11日回

会場／高志の国文学館ライブラリーコーナー

第68回少年少女自作童話大会の最優秀賞受賞者である久保塚友理さん（富山市西田地方小6年）による「おじいちゃんの懐中時計」の朗読や、優秀賞の細川由妃さん（富山市蛸川小6年）による「うその砂時計」の朗読が披露された。ふたりとも原稿を見ずに朗読し、来場者からは大きな拍手が送られた。その後、愛宕幼稚園の園児のみなさんが、「はらぺこ あおむし」と「十二支のうた」を元気いっぱい合唱。他にも、「読み聞かせ広げ隊」による読み聞かせや学校司書による「読書へのアニメーション」も行われた。



□ 「高志の国文学館の四季」 フォトコンテスト入賞作品展示

開催日／平成28年 1月16日(土)～平成28年 2月29日(日)

会場／高志の国文学館エントランスロビー

今回のフォトコンテストは、四季折々の風景写真を撮影していただくことを通して、県民の身近な憩いの場である高志の国文学館の魅力を見直すことをねらい実施したものです。

平成28年1月17日(日)には、「高志の国文学館の四季」フォトコンテスト表彰式が行われ、表彰式では、富山県写真連盟の堀田信一委員長から講評があった後、中西館長から賞状と賞金が贈呈された。入賞者は以下の通り。

○最優秀賞

作品名(季節)	入賞者氏名
特等席(冬)	梅木 宏真

○優秀賞

作品名(季節)	入賞者氏名
静かな時間(春)	平木 文子
観桜の集い(春)	小川 圭二
春うらら(春)	後谷 弘
対称(夏)	守山 泰史
秋陽(秋)	網谷 昭
静景(冬)	富田 栄人



特等席(冬)



静かな時間(春)



観桜の集い(春)



春うらら(春)



対称(夏)



秋陽(秋)



静景(冬)



□第2回高校生による朗読会

開催日／平成28年1月23日(土)～1月24日(日)
 会場／高志の国文学館ライブラリーコーナー
 出演／富山高等専門学校放送部
 富山第一高等学校放送部
 富山県立富山中部高等学校放送部
 富山県立砺波高等学校放送部
 富山県立桜井高等学校放送部
 富山県立南砺福野高等学校放送部

参加者／120名

平成28年1月23日(土)、24日(日)の2日間、第2回高校生による朗読会を開催。23日(土)には、招待校である富山高等専門学校と富山第一高校のみなさんが、田中冬二作 詩集『青い夜道』を朗読。「ほむ ほむ ほむ ほうむ」という詩中の言葉を随所で巧みに展開させながら、冬二の世界を伝えていくという演出だった。

また、24日(日)には、富山中部、砺波、桜井、南砺福野の各高校放送部のみなさんが童話や小説、エッセーを情感たっぷりに表現。中西館長による講評の後、最優秀

賞である高志の国文学館長賞は、青木新門作『つららの坊や』と内海隆一郎作『小さな手袋』を朗読した富山県立砺波高等学校に贈られ、賞状、カップ、サイン入り著書『日本人の祈り ころの風景』が贈呈された。また、同校の出演者全員にサイン入り著書『ひらがなでよめばわかる日本語』が贈られた。



□高志の国文学館 炉辺暖話

開催日／平成28年2月7日(日)、2月21日(日)、
 3月21日(月)

会場／高志の国文学館研修室101、研修室103

コーヒーを飲みながら、高志の国文学館の学芸員と設定されたテーマについて語り合う「高志の国文学館 炉辺暖話」を開催。平成27年度は以下のテーマで全3回実施した。



	開催日	テーマ	担当	参加者数
第1回	2月7日(日)	蜃気楼と富山文学	菅田 智雄	15
第2回	2月21日(日)	かくいちほん 覚一本平家物語の奥書 <small>おくがき</small> について	小林加代子	14
第3回	3月21日(月・振)	田中冬二について	綿引 香織	13

4. 高志の国文学館友の会

高志の国文学館友の会は、文学館の開館に先立つ平成24年6月18日、「文学館の事業に基盤をおいて、ふるさと文学を中心とする幅広い芸術文化に関する活動を通して、多くの人々が生涯学習の機会を持ち、会員相互に親睦を深めるとともに、文学館と連携し、文学館の活動を広く支援していくことを目的」として設立された。

平成27年度は、雪山行二氏（富山県立近代美術館館長）特別講演会「堀田善衛とゴヤ」の共催をはじめ、朗読・弾き語りコンサート「マイ・ラスト・ソング 久世光彦×浜田真理子×小泉今日子」や高志の国文学館開館3周年記念朗読劇「風の盆恋歌」を開催した。さらに、企画展関連バスツアーや研修旅行、落合務シェフの料理&トークショーの開催のほか、文学館が主催する各種イベントや講演会等への優先参加を行った。

会員数は、878名となった。

会員数

一般会員	708	学生会員	3
法人会員	17		
5年会員（個人）	120	5年会員（法人）	2
賛助会員（個人）	26	賛助会員（法人）	2

会費

一般会員	2,000円
学生会員	1,000円
法人会員	20,000円
5年会員（個）	10,000円
5年会員（法）	100,000円
賛助会員	一口10,000円

特典

- ・文学館ニュースや各種行事案内の配布
- ・文学館及び友の会主催行事への優先参加
- ・文学館が発行する図録等の割引購入
- ・文学館内レストランの飲み物代優待
- ・文学館内レストランのランチ予約優待

平成27年度事業

- ・企画展「三禅定の旅」バスツアー白山方面
4月18日 参加者33名
- ・企画展「三禅定の旅」バスツアー立山方面
4月25日 参加者11名
- ・企画展「久世光彦展」バスツアー
7月25日 参加者31名
- ・企画展「山の湯の詩情」バスツアー
10月31日 参加者26名
- ・「マイ・ラスト・ソング 久世光彦×浜田真理子×小泉今日子」
7月24日 参加者508名
- ・高志の国文学館開館3周年記念朗読劇「風の盆恋歌」
9月19日 参加者475名
- ・春の研修旅行
「北陸新幹線で行く～軽井沢高原文庫・世界遺産「富岡製糸場」・土屋文明記念文学館 見学の旅～」
5月15日～5月16日 参加者29名
- ・秋の研修旅行
「～大阪文学散歩の旅～」
10月2日～10月3日 参加者38名
- ・雪山行二氏（富山県立近代美術館館長）特別講演会「堀田善衛とゴヤ」
3月6日 参加者70名
- ・落合シェフ料理&トークショー
6月13日 参加者128名
10月10日 参加者138名
3月19日 参加者124名

理事会

8月3日(月)

Ⅲ 管理・運営

1. 利用状況

(1)入館者数・観覧者数

区 分	会 期	日 数 (a)	入館者	企画展 観覧者	常設展 観覧者	観覧者計 (b)	1日 あたり (b/a)	
三禅定の旅－立山・白山・富士山をめぐる－	平成27年4月1日～5月11日 (平成27年3月13日～5月11日)	30 (45)	12,984 (17,906)	3,565 (4,150)	3,725 (4,262)	7,290 (8,412)	243 (187)	※
『田園発 港行き自転車』 藤森兼明挿絵原画展	平成27年5月29日～6月29日	28	11,016	1,815	1,642	3,457	123	
あの日、青い空から －久世光彦の人間主義	平成27年7月11日～9月7日	52	18,023	3,590	3,534	7,124	137	
山の湯の詩情 ^{ポエジー} －田中冬二へのいざない	平成27年10月18日～12月21日	55	18,216	1,656	1,907	3,563	65	
松本清張を魅惑した北陸 －ミステリー文学でたどる－	平成28年1月23日～3月7日	38	12,277	1,798	1,745	3,543	93	
夢二の旅 －たまき・翁久允との ゆかりにふれつつ	平成28年3月21日～3月31日 (平成28年3月21～5月16日)	9 (50)	3,206 (13,756)	709 (5,305)	595 (5,085)	1,304 (10,390)	145 (208)	※
常設展のみ他		94	31,669		3,193	3,193	34	
合 計		306	107,391	13,133	16,341	29,474	96	
休館日		60						

開館日数／306日 うち 臨時開館1日（9月1日）

休館日数／60日

開館延長／5日 展示部門を18時まで延長

開館時間／9時30分から17時まで（展示室への入館は16時30分まで）

休 館 日／火曜日（祝日を除く）、祝日の翌日、年末年始（12月28日から1月4日）

※年度をまたぐ企画展については27年度分の数値（上段）と全会期中の数値（下段）を併記

(2)研修室の利用状況

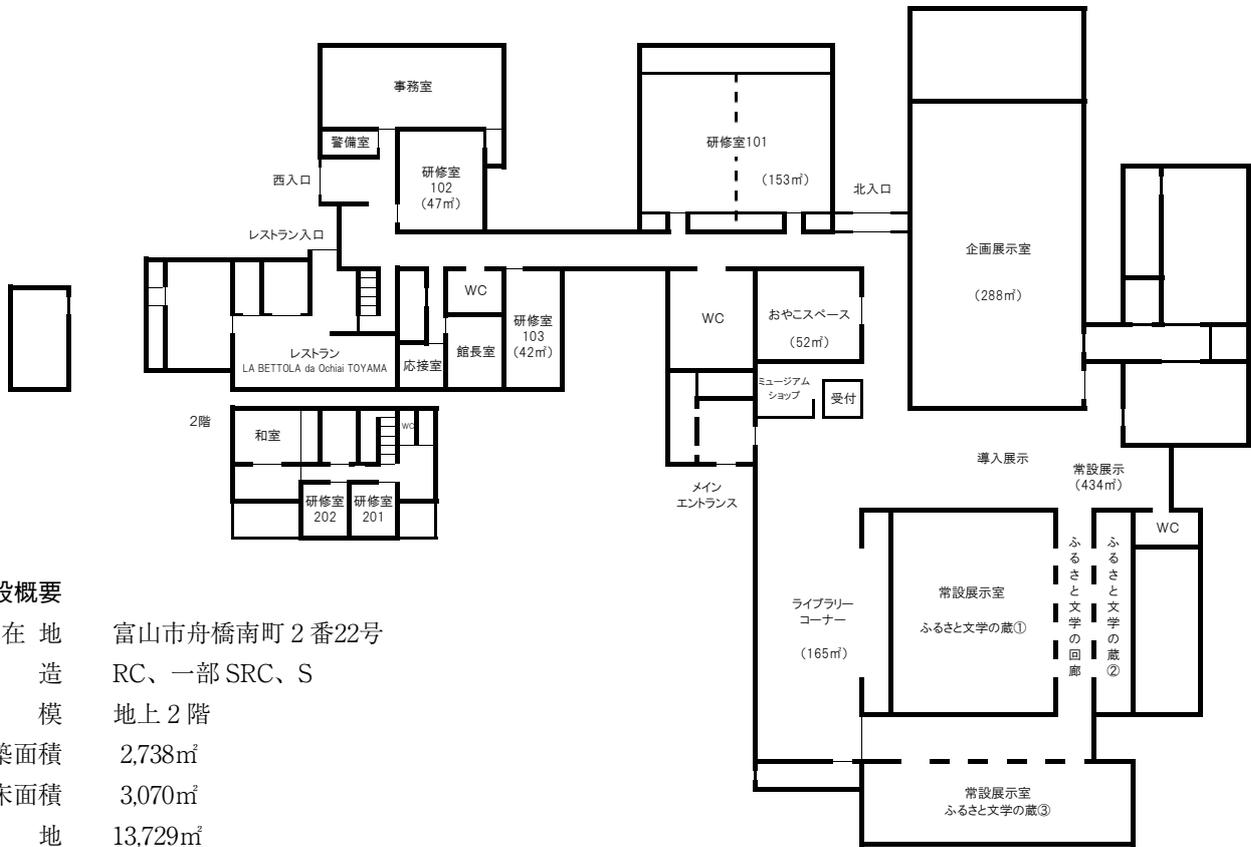
年	月	開館 日数	休館 日数	研修室101		研修室102		研修室103	
				件数	人数	件数	人数	件数	人数
27	4月	26	4	15	724	22	110	32	215
	5月	27	4	20	592	17	48	32	225
	6月	25	5	15	647	17	99	39	296
	7月	27	4	12	205	10	66	34	208
	8月	27	4	24	397	24	97	30	216
	9月	26	4	25	1,106	26	88	40	249
	10月	27	4	22	896	21	93	47	255
	11月	26	4	20	579	26	114	34	245
	12月	22	9	12	442	18	73	34	228
28	1月	23	8	21	382	21	107	30	225
	2月	24	5	25	772	16	96	33	215
	3月	26	5	17	429	21	85	41	263
合 計		306	60	228	7,171	239	1,076	426	2,840

年	月	研修室201		研修室202		和 室		合 計	
		件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数
27	4月	34	103	12	14	13	44	128	1,210
	5月	29	85	18	61	13	48	129	1,059
	6月	31	111	20	49	9	52	131	1,254
	7月	35	117	10	31	8	31	109	658
	8月	25	73	7	16	3	13	113	812
	9月	37	132	22	52	16	47	166	1,674
	10月	42	142	16	38	12	26	160	1,450
	11月	33	113	21	37	13	46	147	1,134
	12月	29	83	12	29	13	27	118	882
28	1月	28	88	15	46	7	25	122	873
	2月	37	125	12	23	8	31	131	1,262
	3月	31	98	8	9	20	44	138	928
合 計		391	1,270	173	405	135	434	1,592	13,196

(3)年度別利用状況

区 分	開館日数	入館者	企画展 観覧者	常設展 観覧者	観覧者 合 計	1 日 当たり	研修室利用	
							件数	人数
平成24年度	222	121,211	21,653	30,668	52,321	236	1,364	11,807
平成25年度	307	126,470	25,017	30,431	55,448	181	1,337	12,592
平成26年度	305	115,866	16,232	19,705	35,937	118	1,650	14,875
平成27年度	305	107,391	13,133	16,341	29,474	97	1,592	13,196
合 計	1,139	470,938	76,035	97,145	173,180	152	5,943	52,470

2. 施設の概要



施設概要

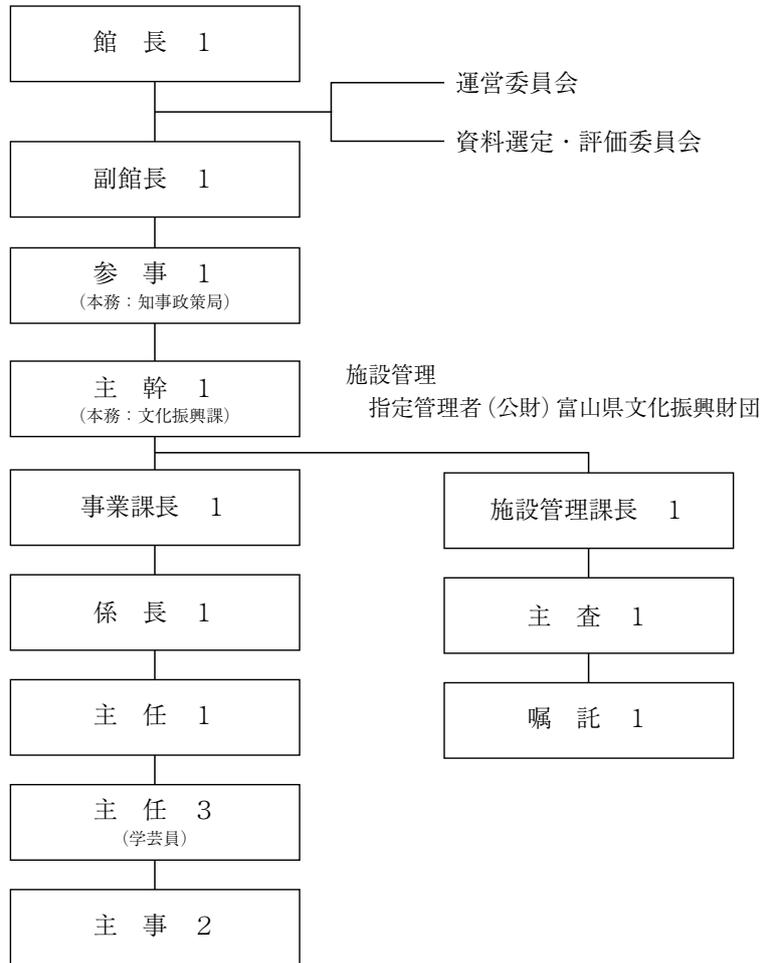
所在地	富山市舟橋南町 2 番22号
構造	RC、一部 SRC、S
規模	地上 2 階
建築面積	2,738㎡
延床面積	3,070㎡
敷地	13,729㎡
設計	シーラクスアンドアソシエイツ
工事施工	日本海建興、酒井建設、辻建設、乃村工藝社 ほか
総工費	1,947,135,080円
工期	起工 平成23年 7 月 4 日 竣工 平成24年 7 月 3 日

高志の国文学館受賞等の記録

全建賞	一般社団法人全日本建設技術協会	平成25年 6 月28日
中部建築賞	中部建築賞協議会	平成25年12月11日
日本建築学会作品選奨	一般社団法人日本建築学会	平成26年 5 月30日
第44回富山県建築賞	富山県建築賞協議会	平成26年 1 月24日
JIA 優秀建築賞	公益社団法人日本建築家協会	平成27年 4 月24日
うるおい環境とやま賞	富山県	平成27年11月25日

3. 機構

平成28年3月31日現在



□指定管理者の指定状況

平成24年7月～平成26年度 (公財)富山県文化振興財団
 平成27年度～平成31年度 (公財)富山県文化振興財団

□職員名簿

職	氏名	備考
館長	中西進	
副館長	熊野真	
参事	松島吉信	本務 知事政策局参事
主幹	橋本隆	本務 文化振興課主幹
事業課長	守内紀子	
係長	川渕貴	兼務 文化振興課
主任	菅田智雄	
主任	綿引香織	学芸員
主任	大川原竜一	学芸員
主任	小林加代子	学芸員
主事	関谷俊輔	兼務 文化振興課
主事	水岡大思	本務 文化振興課
施設管理課長	富岡准二	
主査	長井秀年	
嘱託	魚屋美智乃	

4. 組織

平成28年3月31日現在

高志の国文学館運営委員会委員

氏名	役職等
生田 美秋	世田谷文学館学芸専門員
瀬川 信子	公募委員、県 PTA 連合会家庭教育委員長
高木 繁雄 ※	(株)北陸銀行特別顧問
多田 慎一	第一物産(株)相談役
飛田 久子	富山県婦人会理事
中井 敏郎	東亜薬品(株)代表取締役社長
マリ・クリスティーン	富山大学客員特別研究員
八木 光昭	元聖徳大学文学部教授
吉田 泉	(一社)富山県芸術文化協会会長
米田 憲三	富山県歌人連盟名誉会長

※委員長

ふるさと文学資料選定・評価委員会委員

①書籍等

氏名	役職等
八木 光昭	元聖徳大学教授
晒谷 和子	高岡市立博物館長
広井 睦	富山県立図書館長
久泉 迪雄	日本短歌協会副理事長、富山県歌人連盟顧問
河原 桂介	とやま同人誌会会長

②絵画

氏名	役職等
大熊 敏之	富山大学芸術文化学部教授
島 敦彦	国立国際美術館副館長
福永 治	広島市現代美術館長

高志の国文学館アドバイザー

氏名	役職等
篠田 正浩	映画監督
滝田洋二郎	映画監督
藤子不二雄 [Ⓐ]	漫画家

高志の国文学館新企画アドバイザー

氏名	役職等
太田麻衣子	コピーライター
河合 隆	有識者
本木 克英	映画監督
屋敷陽太郎	プロデューサー
山内マリコ	作家

IV 資 料

沿革

年 月 日	事 項
平成20年 6月2日	ふるさと文学魅力推進検討委員会を設置
10月	ふるさと文学の振興に関する県民アンケート調査を実施
平成21年 2月3日	ふるさと文学魅力推進検討委員会報告「ふるさと文学の振興に関する報告書」
6月12日	ふるさと文学資料評価・活用委員会を設置
11月10日	知事公館を廃止し、文学館の建設候補地とすることを発表
平成22年 2月4日	ふるさと文学資料評価・活用委員会報告「ふるさと文学の拠点施設の整備・運営にかかる基本的な考え方」
3月31日	「富山県ふるさと文学館（仮称）整備基本方針」を策定
3月31日	富山県知事公館廃止
5月17日	富山県ふるさと文学館（仮称）開設準備委員会を設置
11月19日	館長予定者として辺見じゅん氏が顧問に、中西進氏、篠田正浩氏、藤子不二雄 ^① 氏、滝田洋二郎氏がアドバイザーに就任
平成23年 4月5日	公募したレストラン部門に「ラ・ベットラ・ダ・オチアイ」の出店が決定
7月4日	建築工事に着手
9月5日	名称を「高志の国文学館」に決定
9月21日	辺見じゅん顧問急逝
9月28日	高志の国文学館条例を一部施行
11月30日	高志の国文学館指定管理者の募集開始
12月1日	中西進館長が就任
平成24年 1月5日	高志の国文学館開館日を7月6日に決定
1月21日	高志の国文学館ミーティングを開催
3月23日	高志の国文学館の指定管理者に（公財）富山県文化振興財団を指定
6月	高志の国文学館建築工事竣工
7月6日	高志の国文学館条例一部改正
7月6日	開館
7月6日	開館記念展「大伴家持と越中万葉一風土とこだまする家持の心」開催
7月8日	開館記念講演会「日本文化の底流」五木寛之氏
7月15日	入館者1万人達成
8月8日	秋篠宮同妃両殿下ご夫妻並びに佳子内親王殿下ご来館
9月23日	辺見じゅん先生の思い出を語る会 開催
12月8日	開館記念展Ⅱ「富山が育んだ少年時代－小説・漫画・映画が描く疎開少年の長い道－」開催
平成25年 2月3日	入館者10万人達成
3月20日	特別展「おおかみこどもの雨と雪－大自然に生きる母と子の物語－」開催
4月7日	写真展「入江泰吉と奈良を愛した文士たち」開催
5月26日	入館者15万人達成
7月7日	特別展「立山曼荼羅を文学する」開催
8月10日	特別展「辺見じゅんの世界」開催
10月10日	入館者20万人達成
10月18日	高円宮妃殿下ご来館
11月3日	中西進館長 文化勲章受章
11月17日	企画展「『世界のムナカタ』を育んだ文学と民藝－棟方志功の感応力」開催
12月14日	中西進館長 富山県特別栄誉賞授与式・文化勲章受章記念講演会 開催
平成26年 3月20日	企画展「漫画家 藤子・F・不二雄のSF（すこし・ふしぎ）」開催
4月6日	入館者25万人達成
4月26日	棟方志功未公開作品特別展示 開催
7月26日	企画展「風の盆 深奥の心をさぐる」開催
8月4日	入館者30万人達成
10月10日	ギャラリー展「竹久夢二展」開催
10月30日	企画展「川の文学－うつりゆく富山の歴史の中で－」開催
平成27年 1月7日	ギャラリー展「『冷光文庫』展－富山におり立った「雪の女王」を訪ねて－」開催
1月28日	企画展「川の文学 美しきふるさと－富山の川をめぐる文学と美術の交響－」開催
3月13日	企画展「三禅定の旅－立山・白山・富士山をめぐる－」開催
5月20日	ギャラリー展「豊かなイマジネーション 妖怪がひそむ富山の民話」開催
5月29日	特別企画展「『田園発 港行き自転車』藤森兼明 挿絵原画展」開催
7月11日	企画展「あの日、青い空から－久世光彦の人間主義」開催
7月19日	入館者40万人達成
9月9日	ギャラリー展「『海』物語 憧れ・神秘・畏怖～海づくり大会によせて～」開催
10月18日	企画展「山の湯の詩情－田中冬二へのいざない」開催
平成28年 1月23日	企画展「松本清張を魅惑した北陸－ミステリー文学でたどる－」開催
3月21日	企画展「夢二の旅－たまき・翁久允とのゆかりにふれつつ」開催

V 關係法令

高志の国文学館条例

平成23年 9月28日

富山県条例第41号

改正 平成24年 6月29日条例第38号

平成26年 3月26日条例第21号

高志の国文学館条例を公布する。

高志の国文学館条例

(趣旨)

第1条 この条例は、高志の国文学館の設置及び管理に関し必要な事項を定めるものとする。

(設置)

第2条 富山県の自然及び風土の中ではぐくまれた文学作品その他の文学関係資料を紹介し、文学に関する県民の知識を深め、教養の向上を図るとともに、県民自らが親しみ、学び、創造し、交流することができるよう、県民に文学を中心とする文化活動の場を提供し、もって教育、学術及び文化の振興並びに心豊かな地域社会の形成に寄与するため、高志の国文学館（以下「文学館」という。）を設置する。

(位置)

第3条 文学館は、富山市に置く。

(事業)

第4条 文学館は、次に掲げる事業を行う。

- (1) 文学に関する書籍、原稿、文献、写真、フィルムその他の資料及び文学者に関する資料（以下「文学資料」という。）を収集し、保管し、及び展示し、並びに閲覧に供すること。
- (2) 文学資料の利用に関し必要な説明、助言、指導等を行い、及び研修室等を設置してこれを利用させること。
- (3) 文学に関する講演会、講習会、映写会、研究会等を開催すること。
- (4) 文学資料に関する専門的な調査研究を行うこと。
- (5) 文学資料に関する案内書、解説書、目録、図録、年報、調査研究の報告書等を作成し、及び頒布すること。
- (6) 前各号に掲げるもののほか、文学館の設置の目的を達成するために必要な事業

(指定管理者による管理)

第5条 知事は、地方自治法（昭和22年法律第67号）第244条の2第3項の規定により、法人その他の団体であつて知事が指定するもの（以下「指定管理者」という。）に文学館の管理を行わせるものとする。

(指定管理者が行う業務)

第6条 前条の規定により指定管理者に行わせる管理の業務は、次に掲げる業務とする。

- (1) 文学館の施設及び設備の維持管理に関する業務

- (2) 第13条第1項の規定による専用使用の承認に関する業務

- (3) 第15条第1項に規定する使用料の徴収に関する業務

- (4) その他文学館の管理に関して知事が必要と認める業務（休館日）

第7条 文学館の休館日は、次に掲げる日とする。ただし、知事は、特に必要があると認めるときは、休館日以外の日に休館し、又は休館日に開館することができる。

- (1) 火曜日（その日が国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日（以下「休日」という。）に当たる場合を除く。）

- (2) 休日の翌日（その日が日曜日、土曜日又は休日に当たつた場合は、その日後においてその日に最も近いこれらの日以外の日）

- (3) 12月28日から翌年の1月4日までの日

(開館時間)

第8条 文学館の開館時間は、午前9時30分から午後5時までとする。ただし、研修室及び和室の開館時間については午前9時30分から午後9時まで、駐車場の開館時間については午前9時から午後9時30分までとする。

2 前項の規定にかかわらず、知事は、特に必要があると認めるときは、開館時間を臨時に変更することができる。

(平24条例38・一部改正)

(入館の拒否及び制限)

第9条 指定管理者は、文学館に入館しようとする者が次の各号のいずれかに該当すると認めるときは、入館を拒否することができる。

- (1) 他の入館者に迷惑となる行為をするおそれがあるとき。

- (2) 施設、設備又は文学資料（次条第1項第2号において「施設等」という。）を汚損し、又は損傷するおそれがあるとき。

2 指定管理者は、文学館の管理上必要があると認めるときは、入館を制限することができる。

(遵守事項等)

第10条 文学館に入館した者は、次に掲げる事項を守らなければならない。

- (1) 他の入館者に迷惑となる行為をしないこと。

- (2) 施設等を汚損し、又は損傷しないこと。

- (3) 指定された場所以外の場所で喫煙又は飲食をしないこと。

- (4) その他知事が特に指示した事項

2 知事は、文学館に入館した者が前項の規定に違反したときは、その者に退館を命ずることができる。

(常設展示観覧料及び企画展示観覧料)

第11条 常設展示室において展示している文学資料を観

覧しようとする者は、別表第1に定める金額の常設展示観覧料を納めなければならない。ただし、企画展示観覧料を納める者は、この限りでない。

2 企画展示室において特別に展示している文学資料を観覧しようとする者は、別表第1に定める金額の企画展示観覧料を納めなければならない。

(平24条例38・一部改正)

(特別観覧)

第12条 文学館に展示し、又は保管している文学資料について学術研究等のために模写、模造、撮影等をしようとする者は、知事の承認を受けなければならない。

2 前項の承認には、文学資料の管理上必要な条件を付することができる。

3 第1項の承認を受けた者は、別表第1に定める金額の特別観覧料を納めなければならない。

(平24条例38・一部改正)

(専用使用の承認等)

第13条 文学館の施設のうち別表第1に掲げるものを専用して使用しようとする者は、あらかじめ、指定管理者の承認を受けなければならない。承認を受けた事項を変更しようとするときも、同様とする。

2 指定管理者は、前項の承認を受けようとする者が第9条第1項各号のいずれかに該当すると認めるとき、その他文学館の設置の目的を達成するについて不適当と認めるときは、前項の承認をしないものとする。

3 第1項の承認には、文学館の管理上必要な条件を付することができる。

(平24条例38・一部改正)

(施設使用料及び駐車料金)

第14条 前条第1項の承認を受けた者(以下「専用使用者」という。)は別表第1に定める金額の施設使用料を、駐車場を使用する者は別表第2に定める金額の駐車料金を納めなければならない。

(平24条例38・一部改正)

(使用料の徴収方法)

第15条 常設展示観覧料、企画展示観覧料及び特別観覧料並びに施設使用料及び駐車料金(以下「使用料」という。)は、知事の発行する納入通知書により徴収する。ただし、これにより難い場合においては、口頭又は掲示の方法により現金で徴収する。

2 使用料は、前納とする。ただし、知事が特別の理由があると認めるときは、この限りでない。

(平24条例38・一部改正)

(使用料の減免)

第16条 知事は、特別の理由があると認めるときは、使用料を減免することができる。

(使用料の還付)

第17条 既に徴収した使用料は、還付しない。ただし、知事が特別の理由があると認めるときは、この限りでない。

(専用使用の承認の取消し等)

第18条 指定管理者は、次の各号のいずれかに該当する場合は、第13条第1項の承認を取り消し、又はその使用を制限することができる。

(1) 専用使用者がこの条例又はこの条例に基づく規則の規定に違反したとき。

(2) 専用使用者が偽りその他不正の手段により第13条第1項の承認を受けた事実が明らかとなったとき。

(3) 専用使用者が第13条第3項の規定による承認の条件に違反したとき。

(4) その他文学館の管理上特に支障があると認められるとき。

(高志の国文学館運営委員会)

第19条 文学館に高志の国文学館運営委員会(以下「委員会」という。)を置く。

2 委員会は、文学館の運営に関し知事の諮問に応ずるとともに、知事に対し意見を述べるものとする。

第20条 委員会は、委員10人以内で組織する。

2 委員の任期は、2年とする。ただし、委員が欠けた場合における補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

3 委員は、再任されることができる。

第21条 委員会に、委員長及び副委員長1人を置く。

2 委員長及び副委員長は、それぞれ委員が互選する。

3 委員長は、会務を総理し、委員会を代表する。

4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるときは、その職務を代理する。

(規則への委任)

第22条 この条例の施行に関し必要な事項は、規則で定める。

附 則

(施行期日)

1 この条例は、平成23年10月1日から施行する。ただし、第5条から第21条まで、附則第2項及び別表第1の規定は、規則で定める日から施行する。

(平成24年規則第40号で附則第1項ただし書に規定する規定は、平成24年7月6日から施行)

(平24条例38・一部改正)

(施設使用料の特例)

2 前項の規則で定める日から起算して2年を経過する日までの間における別表第1の4の規定の適用については、同表中「4,350円」とあるのは「2,900円」と、「860

円」とあるのは「570円」と、「3,890円」とあるのは「2,590円」と、「770円」とあるのは「510円」と、「1,390円」とあるのは「930円」と、「280円」とあるのは「190円」とする。

(平24条例38・平26条例21・一部改正)

附 則 (平成24年条例第38号)

(施行期日)

- 1 この条例は、平成24年7月6日から施行する。
(経過措置)
- 2 この条例の施行の日から平成25年3月31日までの間における第6条の規定の適用については、同条第1号中「施設」とあるのは「施設(駐車場を除く。)」と、同条第3号中「使用料」とあるのは「使用料(駐車料金を除く。)」とする。

附 則 (平成26年条例第21号) 抄

(施行期日)

- 1 この条例は、平成26年4月1日から施行する。
(高志の国文学館条例等の一部改正に伴う経過措置)
- 3 この条例の施行の際現に第8条、第12条、第15条、第19条、第20条、第33条又は第34条の規定による改正前のそれぞれの条例の規定により承認を受けている者の当該承認に係る使用料又は手数料の額については、第8条、第12条、第15条、第19条、第20条、第33条又は第34条の規定による改正後のそれぞれの条例の規定にかかわらず、なお従前の例による。

別表第1 (第11条、第12条、第13条、第14条関係)

(平24条例38・旧別表・一部改正、平26条例21・一部改正)

1 常設展示観覧料

区 分	金額 (1人1回につき)	
	個人	20人以上の団体
大学の学生及びこれに準ずる者	160円	100円
一般	200円	160円

備考 小学校の児童、中学校の生徒、高等学校の生徒及びこれらに準ずる者に係る常設展示観覧料は、無料とする。

2 企画展示観覧料

1人1回につき1,500円の範囲内で知事が定める金額

3 特別観覧料

1回1点につき4,100円の範囲内で知事が定める金額

4 施設使用料

区 分		使用時間3時間までの金額	超過時間1時間の金額
研修室1	全部使用	14,160円	3,540円
	2分の1使用	7,040円	1,760円
研修室2		4,350円	860円
研修室3		3,890円	770円
研修室4		1,390円	280円
研修室5		1,390円	280円
和室		1,670円	330円
附属設備		実費を勘案して知事が定める額	

備考

- 1 使用時間1時間未満の端数は、1時間として計算する。
- 2 使用時間を短縮した場合においても、施設使用料は、減額しない。

別表第2 (第14条関係)

(平24条例38・追加)

種 別	単 位	金 額
基本料金	入場した時から1時間までにつき1台	320円
加算料金	入場した時から1時間を超える時間30分までごとにつき1台	110円

高志の国文学館の職員の勤務時間に関する規程

平成24年7月5日
富山県訓令第10号

高志の国文学館の職員の勤務時間に関する規程を次のように定め、公表する。

高志の国文学館の職員の勤務時間に関する規程
(趣旨)

第1条 この訓令は、県職員及び県費負担教職員の勤務時間、休日及び休暇に関する条例（昭和26年富山県条例第73号）第4条第1項及び富山県職員の勤務時間に関する規程（昭和27年富山県訓令第1号）第3条の規定に基づき、高志の国文学館の職員（知事の指定する者を除く。以下「職員」という。）の勤務時間に関し必要な事項を定めるものとする。

(勤務時間)

第2条 職員の勤務時間は、午前8時30分から午後5時15分までとする。

2 高志の国文学館長（以下「館長」という。）は、業務の状況により必要があると認めるときは、勤務時間を繰り上げ、又は繰り下げることができる。

(週休日及び勤務時間の割振り)

第3条 館長は、職員の週休日を日曜日及び土曜日以外の日とすることができる。

2 職員の勤務時間の割振りには、館長が定める。

(休憩時間)

第4条 職員の休憩時間は、1時間とし、館長が勤務時間の途中に置く。

附 則

この訓令は、平成24年7月6日から施行する。

高志の国文学館の使用料の額について

平成24年7月5日
富山県告示第317号

改正 平成26年3月26日告示第148号

高志の国文学館の使用料の額について

高志の国文学館条例（平成23年富山県条例第41号）別表第1の4の表の知事が定める額は、次のとおりとし、平成24年7月6日から施行する。

品名	単位	金額
ビデオプロジェクター (スクリーン付)	1式	2,930円
拡声装置(マイク付)	1式	2,490円

備考 この表に掲げる金額は使用時間3時間についての額とし、使用時間3時間未満の端数は3時間として計算する。

改正文（平成26年告示第148号）抄

平成26年4月1日から施行する。

平成27年度 高志の国文学館 年報

平成29年1月13日発行

編集 高志の国文学館

富山県富山市舟橋南町2-22

TEL 076-431-5492

印刷 北日本印刷株式会社

発行 高志の国文学館

※許可なく転載、複製を禁じます。